

March, 1955

島根県水産試験場事業報告

昭和17～28年度

BULLETIN OF THE
FISHERIES EXPERIMENTAL
STATION OF SIMANE-KEN

HAMADA, JAPAN

1942 ~ 1953



水産試験場

田市

昭和30年3月

目次

序 言	
職員名簿	4
施設及設備	5
海洋観測	12
横断観測	12
定置観測	206
PLANKTON調査表	232
果年大羽イワシ漁況の概略	424
大羽イワシ流刺網漁業試験—I	432
大羽イワシ流刺網漁業試験—II	436
大羽イワシ漁況調査並びに通報	449
イワシ資源調査	454
底棲魚類資源調査	485
漁業技術普及事業	510
かき増殖試験	518
保護水面管理事業	531
中海に於けるサルボウの浮游仔貝の垂直分布について—I	541
中海に於ける藻貝養殖場の抱土効果について	541
県内産鮎の豊凶と気象条件について	548
鮎湖上調査	549

漁業高市場調査—I~II	553
菰沢池調査—I~II	555
鮎池中養殖試験	564
江川鮎漁具変調査	565
浅海利用開発試験(真珠採苗試験)	567
淡水魚増殖事業	573
内水面増殖資源維持事業	576
高津川産鮎の成長度について—I~II	578
鮎産卵状況調査	580
産業廢水水質汚染防止対策試験	581
鯖水煮罐詰製造に於ける原料の鮮度に就いて	642
煎子(イリコ)製造試験—I~II	643
鯖水煮罐詰剥皮防止試験	644
鯖水煮罐詰剥皮防止試験	645
フグみりん乾に表れる白斑様物質について—I~II	648
フラスキンによる保蔵加工試験	648
ホセンフラスキン及びオーヤラツクスによる鮮度保持試験	653
海參製造試験	654
煉製品工場における空中落下細菌について	655
かき鮮度保持試験	656
既刊研究業績並びに水試月報目録	658
神楽堆について	665
漁業用無線施設運用状況	668

22	(1) 竹島近海の漁場価値について	神藤 正
	(2) 昭和27年度大羽イワシ流刺網漁業試験	児島俊平
	(3) 西日本の大羽イワシ漁況について	児島俊平
	(4) 春サバと水況	岩田清徳
	(5) 浜田市で開かれた第ノ回南部日本海水試利用 担当者会議	
23	(1) 中海の桁網漁業について	今岡要二郎
	(2) Fish-Finderの反射損失について	尾方秀敏
	(3) フグ みりん乾 に表はれる白斑様物質につ いて - II - II	丸一頼蔵 島津 彦
	(4) プリ随筆	岩田清徳
	(5) フラスキンに依る保蔵試験(イリコ鯉防腐試 験) - II	丸一頼蔵 島津頼彦
24	(1) 昭和27年度事業計画	
	(2) 流し四ツ張網漁法について	児島俊平
	(3) 「わかめ」の豊凶について	竹内四郎
	(4) 「いわのり」の豊凶について	竹内四郎
	(5) 煉製品工場に於ける空中落下細菌について	丸一頼蔵 山本 寛 島津頼彦
	(6) 「かき」鮮度保持試験	山本寛 島津頼彦 日野佳明
	(7) 蓄電池の取扱いについて(普及)	順田栄一
	(8) 漁船機関のディーゼル化について(普及)	小川俊雄
25	(1) シイラ稚魚 - I	児島俊平
	(2) 海參(いりこ)製造試験	丸一頼蔵 山本 寛 島津頼彦 生田政一
	(3) 九州東岸の釣漁業について - I	岩田清徳
	(4) 抗酸化剤サステンによる魚類油焼防止試験	丸一頼蔵 島津頼彦 日野佳明
	(5) 直流発電機について(普及)	順田栄一

26	(1) 水産加工と蠅の問題について	丸一頼蔵
	(2) いわし資源調査概要(昭和27年度)	稲葉 忠 堀 栄一 大屋幸子
	(3) 高津川鮎湖上状況調査(昭和28年度)	竹内四郎 篠原国一
	(4) 高津川産鮎の生長度について	竹内四郎 篠原国一
	(5) 食品防腐剤N、T、Tによる魚類鮮度保持試験	丸一頼蔵 山本 寛 島津頼彦 日野佳明
	(6) 機関の定期的検査を行ひませう	小川俊雄

神藤堆について

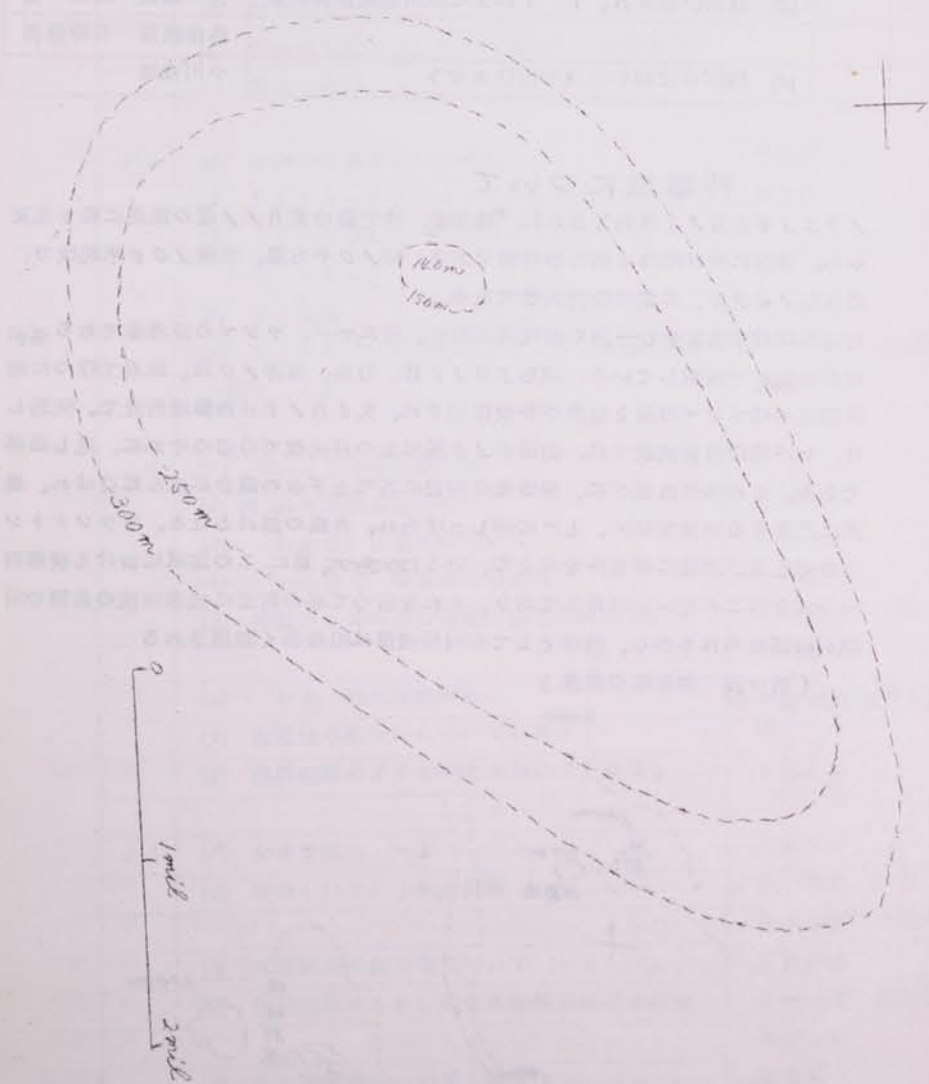
1953年6月18日発見された「神藤堆」は竹島の東方ノノ渚の置点に在り北東から、南西に伸びた略々楕円形の渚で長さ、約10平方渚、水深200米前後で、最浅部40米、底質は砂泥貝殻である。

竹島及び神藤堆を含む一帯の海域は回游魚、特にサバ、サンマの好漁場である事が最近の調査で判明している、即ち5月28日、竹島、南方ノノ渚、地点で行った海洋調査ではサンマの卵と稚魚が多数採集され、又6月18日神藤堆附近で、実施した、サバ延縄漁業試験では、釣獲率20%以上の好成績で沿岸のそれに、比し高率である。これは竹島並びに、神藤堆の周辺に於て上下水の混合が盛んに行はれ、底部に沈滞する栄養塩類が、上層に押し上げられ、魚類の餌料となる、プランクトン等の発生及び繁殖に好条件を与えて、いるためである、更にこの海域における暖寒両流の重合がこれを一歩助長しており、これを追って堆の附近に暖寒両流の魚群の回游が確認せられるから、漁場としての利用価値は相当高く評価される

(第一表 神藤堆の位置)

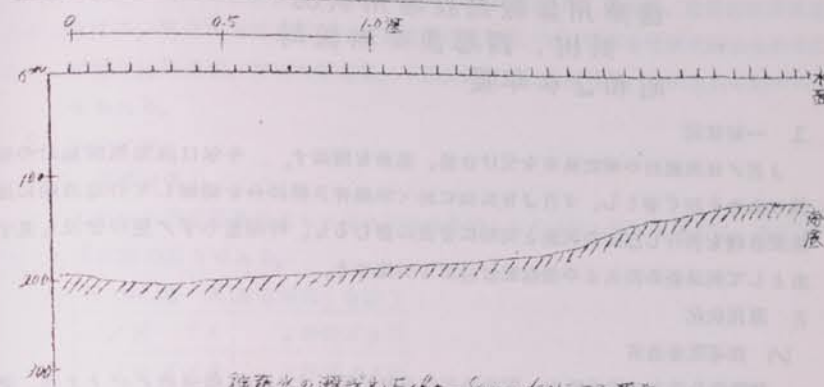


(第二表 神藤堆漁場等深図)

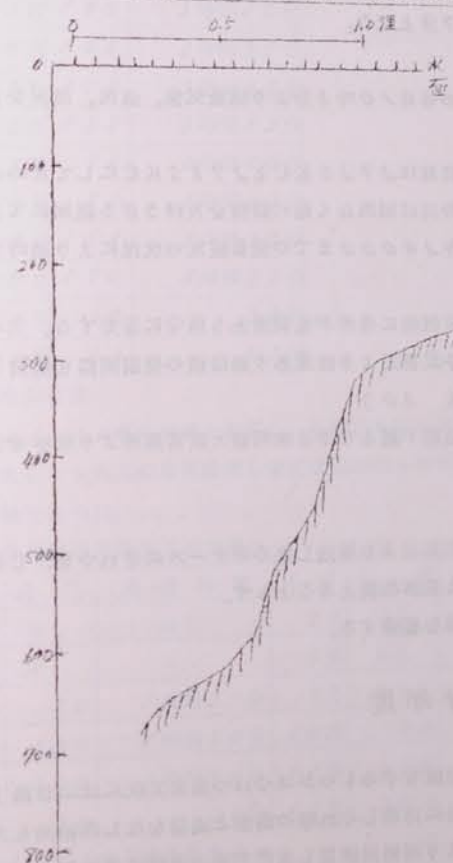


666

(第三表 神藤堆 Echo-soundes による測定)



神藤堆の深さの Echo-soundes による測定



667

